

トホクのユウガオ栽培方法

発芽適温：25～30℃ 生育適温：20～30℃
土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；1～2年あける

1. 作物特性

ユウガオはつるの伸長が旺盛ですから広い面積を必要とします。ユウガオの花が咲く頃は受粉をする昆虫が多いですが、人工授粉をするとより確実に実を着けることができます。ただしユウガオは夕方5時過ぎから花が咲き出しますので覚えておきましょう。病気にもかかりにくいので比較的作りやすい作物です。ただ極々まれではありますが、栽培環境（高温や乾燥など植物にとって過酷な生育環境）によっては苦みの強い果実が成る場合があります、苦みを我慢して食べるとおう吐や下痢などの食中毒症状を起こす場合があります。強い苦みがあれば食べないような注意が必要です。

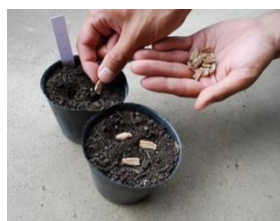
2. 畑の準備

連作障害の少ない作物ですがウリ科野菜との連作は避け排水の悪い畑では少し高いうねを立てます。つるを伸ばす場所として3m位確保します。



3. タネまき

直接畑にタネをまくこともできますが、通常ポットにまいて苗を育てます。発芽適温は地面の温度で25～30℃ですから、



気温が比較的高くなってからまきます。タネはポットに2～3粒くらいが目安です。本葉が出たら間引きをして、ポットに1株にします。

4. 植えつけ

つるを伸ばす方向を決めてうねを作る必要があり、つるを伸ばす場所としてマルチの端から少なくとも3m位のスペースは確保しておきます。



本葉3～4枚の頃に植えつけます。株間は子づる2～3本を伸ばす栽培で2mが適当です。遅霜の恐れがあるときはホットキャップなどを利用します。

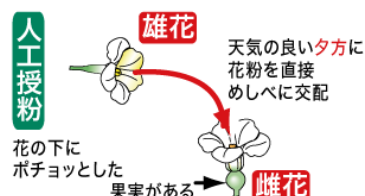
5. 栽培管理・収穫

最初に伸びて親づるを5～6枚目で芯を摘みます。脇から出てきた子づるを2～3本伸ばします。つるを伸ばしたい方向に向けてやり、マルチから出る前にわらなどを敷いておきましょう。



子づるから出た孫づるの第1節に雌花が咲きます。その雌花の葉を1枚残して孫づるの芯を摘みます。

ユウガオは夕方から日没にかけて白い花を咲かせます。通常夜蛾（ヤガ）などが受粉してくれますが、人工交配を行えば着果を確実にできます。



1番目の果実が着果したら1株あたり化成肥料30gをつる先に追肥します。その後も草勢に応じて化成肥料30gを数回追肥します。高温や日照が続く場合、おう吐や下痢などの食中毒症状を起こす可能性のある苦みの強い果実が成る場合があるので、夕方に株元や通路にかん水して予防します。

6. 収穫

花が咲いてから2～3週間、果実の長さが40～70cmになり、果実表面のうぶ毛がとれて来たら収穫できます。その後は果実表面に軽く爪で傷がつく頃まで収穫適期です。



栽培例		まく時期			収穫期							
地域 / 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地												
中間地												
暖地												